

市内には、室町から戦国時代（十四世紀～十六世紀頃）にかけて佐竹氏やその家臣、支族によって築かれた城跡が多く残されています。

◇前小屋城とは

前小屋城跡は大宮地域泉にあります。城の本城部分には現在、「泉の観音さん」として知られている種生院が建っており、こちらには足を運ばれた方も多いいのではないのでしょうか。

前小屋城は発掘調査をしていないため、成立年代など詳細は分かっていません。最初の築城者は秀郷流藤原氏系の那珂氏の分流で、のちに佐竹家臣となる平沢丹後守通行といわれています。平沢氏の衰亡後は佐竹一族の小場氏五代義忠の弟義広の居城となり、前小屋氏を名乗りました。十五世紀後半のこ



▲主郭の西側の薬研堀
(散策マップで「薬研堀（大）」と表示の場所)



とと考えられます。

以来、前小屋氏は小場氏の重臣として活躍し、総本家佐竹氏の軍役要求にもよく耐えたといわれています。慶長五（一六〇〇）年、小場氏の小田城（現つくば市）所替えに伴い小田に移り廃城となりました。

◇前小屋城を歩いてみよう！

城跡内には遊歩道が整備され、城の遺構を見学することができます。前小屋城は東・西・北の三方を水田と谷津に囲まれた台地端にあり、北側を久慈川が流れる天然の要害と呼ぶにふさわしい場所に城を築いてました。



▲前小屋城跡散策マップ

本城跡である種生院の裏手の階段を降りるとV字に掘り込まれた「薬研堀」と呼ばれる堀になっています。この堀は主郭（本城部分）を守るための最大の堀で土塁頂部から堀底までの深さが約十メートルあります。現在は雑木が茂っていますが、当時は軍事的に整備され、敵の侵入を防ぐための逆茂木（敵の襲撃に備えて、枝を地に刺したり、垣に結んだりした防御具）や櫓などが設置されていたことでしょう。堀の外側には平らな区画が広がり、何らかの建物が建てていたことが想像されます。

中世の城は、近世の城と違って天守閣を持たず、戦のための必要最低限の建物で構成されていました。前小屋城の北側には宇留野城、部垂城（へたれじょう）がいずれも久慈川に臨む台地の上に並んで作られていました。川の東の対岸からの眺めはさぞかし壮観だったことでしょう。

城跡の中には水の出る場所が二カ所あり、それぞれ「五器井戸」「三蔵の滝」と呼ばれています。この辺りは昔から水が得にくい土地と言われ、水は大切に使われてきました。文政六（一八二二）年に「前小屋村」から改称された「泉村」の地名はこの地に泉が出たことに由来します。この地の人々の水との関わりの深さが感じられます。三蔵の滝から出る水は今でも宇留野坏地区の生活用水として使われています。

また、城跡内には江戸時代の銘のある石仏がいくつかあります。城跡内の道は近世には生活道路として使われていました。

前小屋城跡は五百年の時を経て、今なお戦乱の時代の様子を伝えていきます。宅地や山林になるなど忘れられかけている遺跡の多い中で、前小屋城跡の遺構の保存の良さは是非ご覧いただきたいものです。将来、詳細な調査がされれば、より鮮明にその姿が浮かび上がることでしょう。
(歴史民俗資料館)